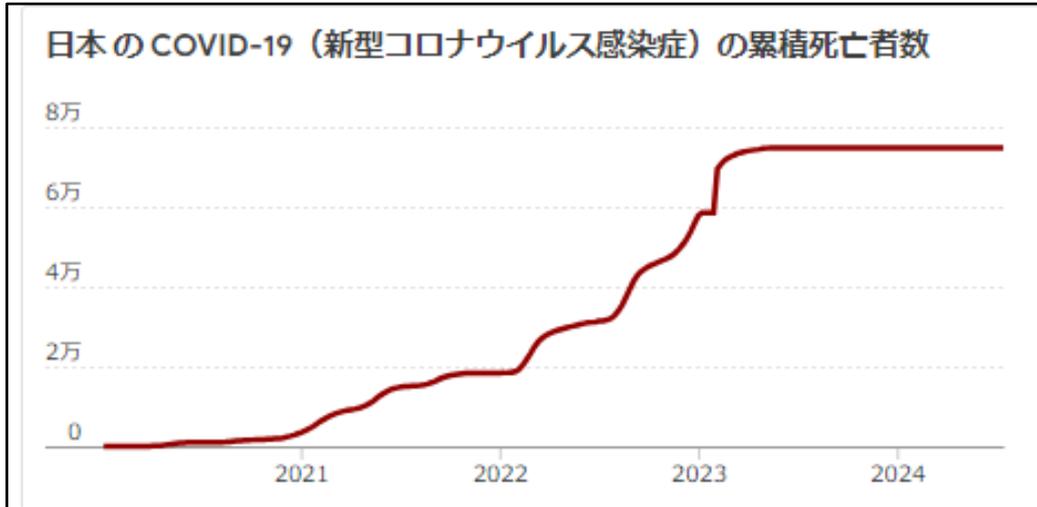


## コロナの「隠れた影響」 = 下桐実雅子

8/5 毎日新聞

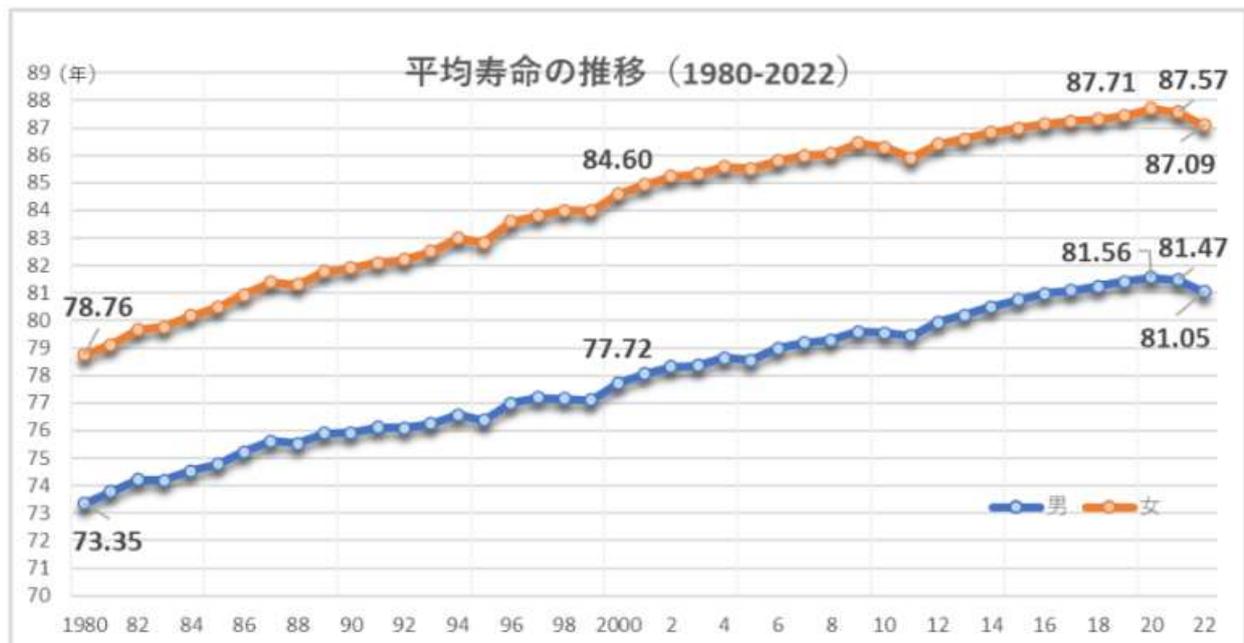
新型コロナウイルスがどれだけの人を死に至らしめたのかを把握するのは簡単ではない。感染症での死亡以外に、感染がきっかけで衰弱したり、持病が悪化したりして亡くなるケースもあるからだ。医療の逼迫（ひっばく）により適切な診療を受けられず、患者の死期が早まったという可能性も考えられる。



全体の影響を知るのに役に立ちそうなのが、平均寿命の変化だ。

日本人の平均寿命は延び続けているが、最近では2011、21、22年で前年より縮んだ。11年は東日本大震災、21年と22年は新型コロナの感染拡大が要因だと考えられている。23年に伸びたのは0.05歳ほどだが、コロナの影響が弱まってきたとの見方もあるだろう。

男の平均寿命は 81.05年、女の平均寿命は87.09年



令和4年の男の平均寿命（0歳の平均余命のこと。以下同じ）は81.05年、女の平均寿命は87.09年となり前年と比較して男は0.42年、女は0.49年下回りました。平均寿命が前年を下回るのは、令和3年に続き2年連続で、下回り幅はR3年よりも拡大しています。

「超過死亡」を調べる方法もある。これは一定期間の実際の総死者数が、過去のデータから予測される総死者数より多かったかどうか比較するものだ。

インフルエンザの流行時は、呼吸器や循環器疾患などの死亡が増えることが知られている。新型コロナでも、隠れた影響を捉える指標になるとして注目を集めた。

国立感染症研究所などのチームのまとめでは、21年の4～6月に通常の年より高い超過死亡数が初めて確認された。その後もコロナ流行の波と重なるように超過死亡が発生したが、23年春以降は目立って確認されなかったとしている。平均寿命の変化と傾向は同じだ。

だが、違う見方もある。

英オックスフォード大の研究者らが運営するウェブサイト「アワー・ワールド・イン・データ」では、日本の超過死亡は増加し、23年は10万人を超えるとの推計だ。なぜ差が出るのか。

**表1 欧米諸国とアジア諸国の累計新型コロナ死亡者数 (10万人当たり)**

	フランス	英国	米国	オランダ	スイス	韓国	日本	台湾*	中国	シンガポール	インド	フィリピン	タイ
2020年 <sup>a</sup>	98.3	134.0	101.4	65.7	82.2	1.6	2.6		0.3	0.5	10.4	7.9	0.1
2021年 <sup>b</sup>	194.2	262.4	242.9	120.1	136.9	11.1	14.8		0.4	14.7	34.0	44.6	30.3
2022年 <sup>c</sup>	251.4	320.4	320.0	130.9	158.9	62.3	46.6		4.0	30.4	37.5	56.6	47.0
2023年 <sup>d</sup>	259.9	343.8	344.2	130.9	162.3	69.4	60.3		8.6	34.7	37.6	57.8	48.1

\*：台湾はOur World in Dataに数値なし  
a：2021年1月2日，b：2022年1月2日，c：2023年1月1日，d：2024年1月1日  
Confirmed COVID-19 deaths per 100,000, Our World in Data

**表2 欧米諸国とアジア諸国の累計超過死亡者数 (10万人当たり)**

	フランス	英国	米国	オランダ	スイス	韓国	日本	台湾	中国	シンガポール	インド	フィリピン	タイ
2020年 <sup>a</sup>	83.6	126.8	145.1	93.8	111.9	-0.3	-12.4	-25.3	-8.1	-6.1	76.8	-6.7	0.9
2021年 <sup>b</sup>	143.9	220.3	299.8	189.5	160.2	14.6	12.6	-17.6	18.9	22.1	341.5	205.0	84.3
2022年 <sup>c</sup>	223.3	306.3	392.1	277.8	248.1	126.4	128.4	77.9	106.5	87.1	459.2	237.6	203.4
2023年 <sup>d</sup>	237.7	390.5	406.1	351.0	289.5	165.3	215.8	144.3 <sup>*</sup>	149.1	148.5	506.5	274.9	269.5

※：台湾の数値は2023年10月時点  
a：2020年12月30日，b：2021年12月30日，c：2022年12月30日，d：2023年12月30日  
Estimated cumulative excess deaths per 100,000 people during COVID-19, Our World in Data

同サイトは、パンデミック（世界的流行）前の15～19年のデータから、20年以降の死者数を予測した。一方、日本は直近5年分のデータを使い、23年の予測死者数は実際の死亡が増えた21年と22年の分も入れて算出した。コロナ流行の繰り返しを「新たな通常状態」とする考えに基づいている。

比較対象の違いで、印象は変わる。どう受け止めればいいのか。

「コロナの影響を見るには、流行前と比べるべきでしょう。アワー・ワールド・イン・データで、日本は累計でコロナ死者数の約4倍の超過死亡が発生しています。そのことを謙虚に見直し、今後の対策を考えることが重要です」

## 8. 日本の新型コロナの超過死亡者数は27万人

日本では最近、超過死亡者数が大幅に増加し、特に2023年は10万人当たり215.8人と、フランスの237.7人に迫り、G7諸国ではカナダを上回った(図1)<sup>13)</sup>。超過死亡者数から計算すると、10万人当たり215.8人であるので、総人口を1億2500万人とすると26万9750人となり、新型コロナ発生以来、約27万人が死亡したこととなる。また、1年ごとの日本の超過死亡者数は、2021年は1万5750人、2022年は14万4750人、2023年は10万9250人となる。一方、日本の新型コロナの累計死亡者数は、2024年1月時点(2024年5月以降、変更なし)で10万人当たり60.3人、総人口では7万5375人となり、超過死亡者数はその3.6倍となる。

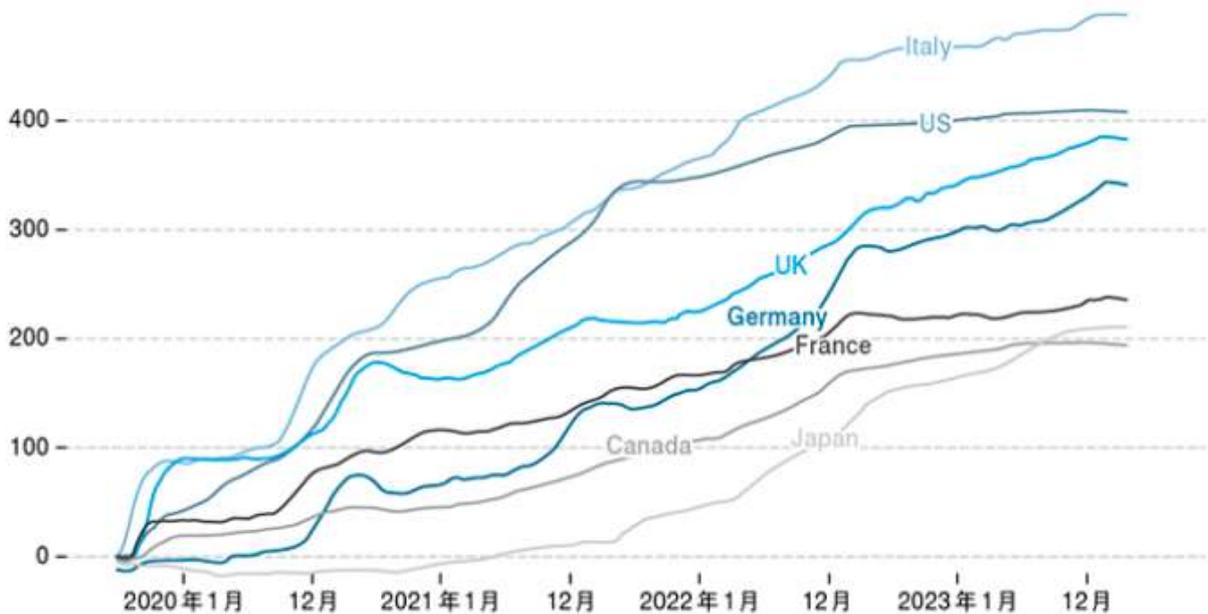


図1 G7諸国の累計超過死亡者数(人口10万人当たり)

日本の新型コロナ超過死亡者数は、2022年初頭のオミクロン株出現以降、急速に増加し、2023年にはカナダを抜きフランスに迫り、日本の人口を1億2500万人とすると、約27万人の超過死亡者数となる。図はThe Economistによる超過死亡モデルをもとにした

感染症専門医の菅谷憲夫・けいゆう病院名誉参事の指摘だ。新型コロナの「第11波」が広がる中、耳を傾けたい。(専門記者)